

第 2 回
南国市総合教育会議

資料①

令和 4 年 1 1 月 2 4 日 (木)

南国市上下水道局 2F 会議室

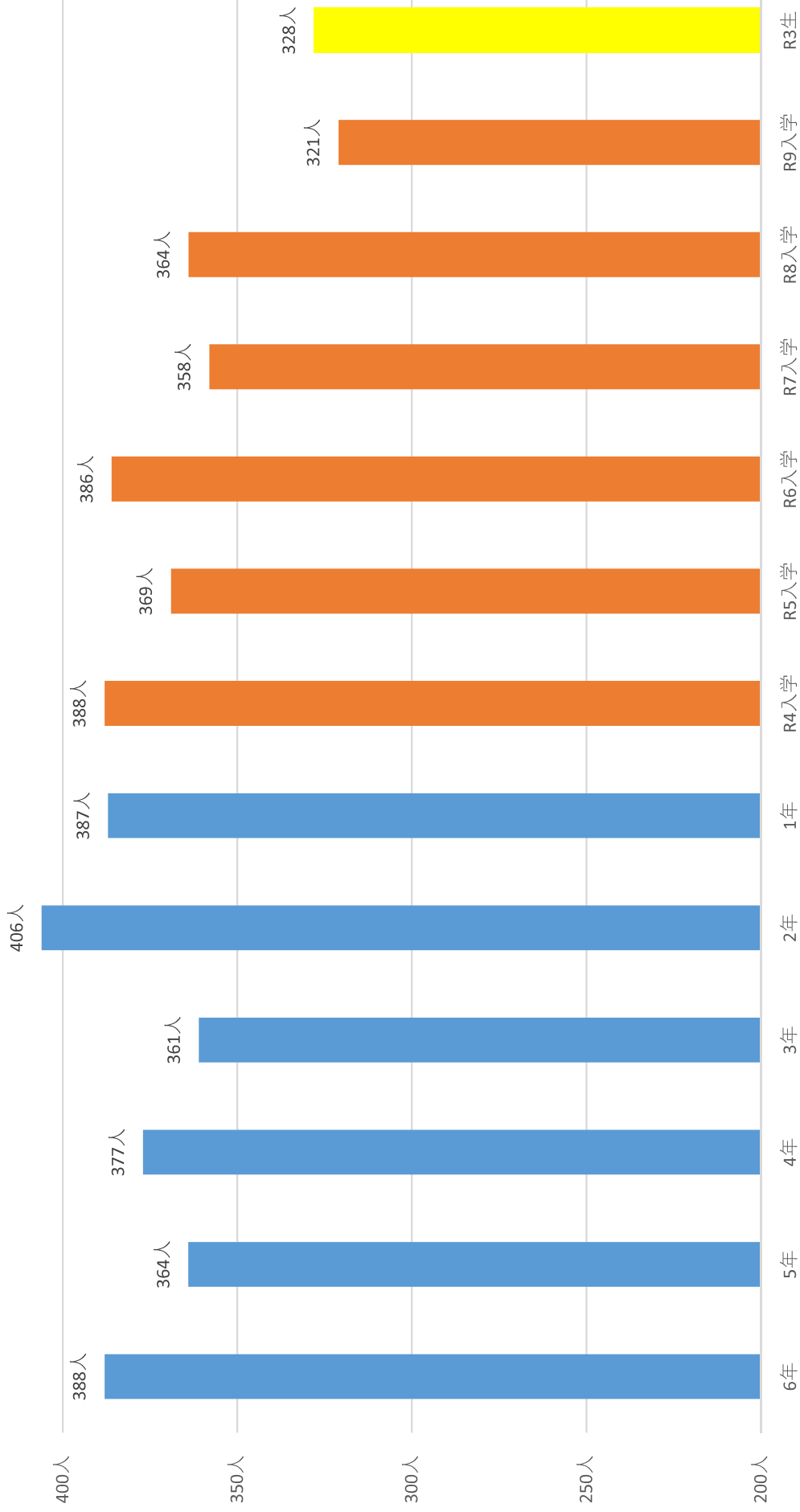
令和3年5月1日現在 小学校 学年別、入学年度別児童数

450人

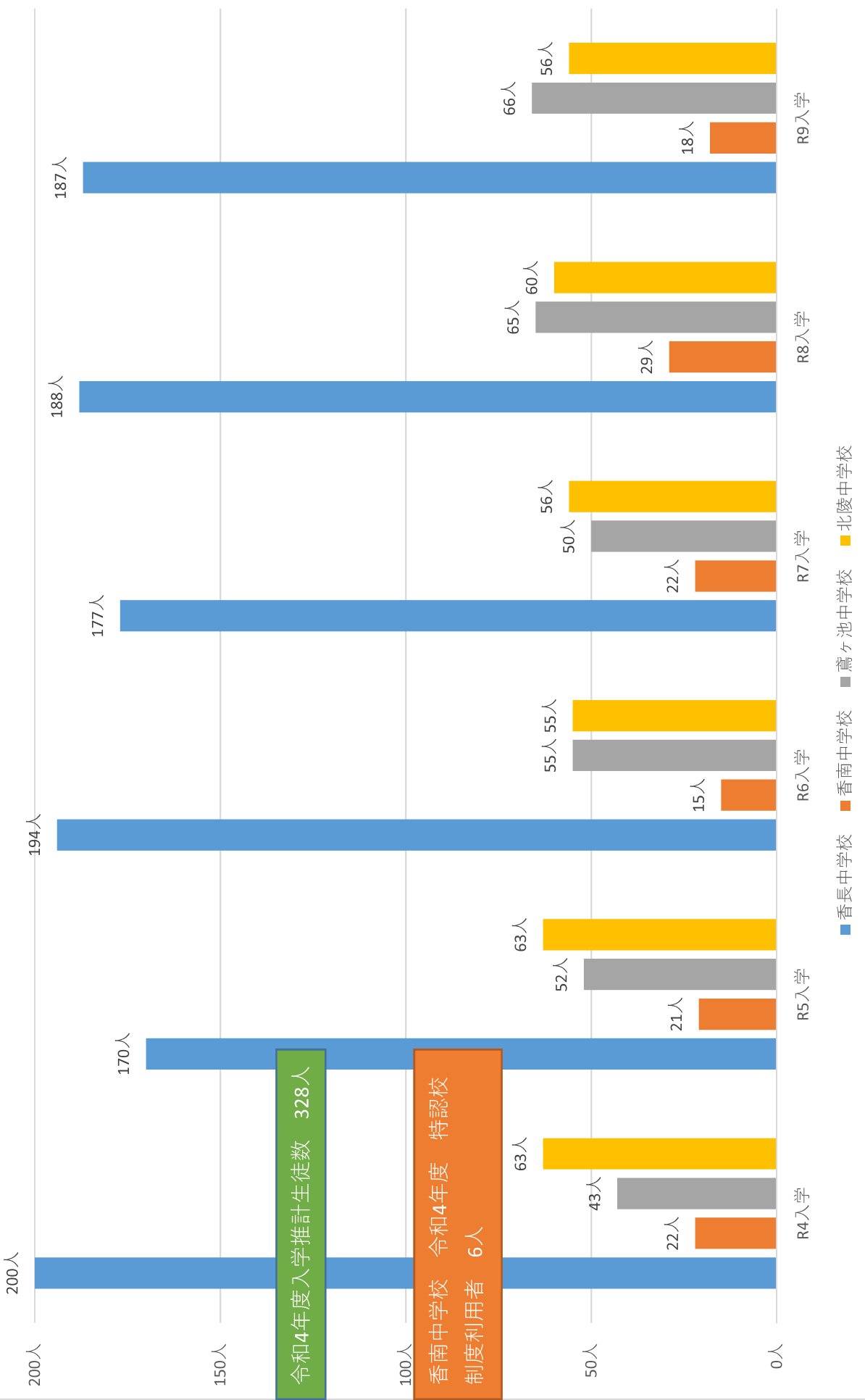
令和3年5月1日児童数 2,283人

97人減

令和9年 推定児童数 2,186人



令和4年度以降令和9年度までに中学校の第1学年に入学する推計生徒数



南国市のこれからの教育・保育の在り方についての
答申

令和4年8月26日

南国市これからの教育・保育を考える会

目次

	頁
はじめに	
第1章 南国市における学校規模について	1
1 児童生徒数及び学級数における現状と課題について	1
(1) 市全体の状況について	1
(2) 各小中学校の状況について	1
(3) エリア別の市立学校・保育所・幼稚園について	3
2 望ましい学校規模の考え方について	4
3 望ましい学校規模のめやすについて	4
4 「望ましい学校規模のめやす」から見た学校の状況について	6
第2章 災害被災想定域にある市立学校・保育所・幼稚園について	7
1 南国市の災害に関する現状と課題について	7
2 津波浸水区域の市立学校・保育所の考え方について	8
3 洪水浸水想定・土砂災害警戒区域に位置する 市立学校・保育所・幼稚園の考え方について	8
第3章 東部エリアの市立学校・保育所について	9
1 東部エリアの現状と課題について	9
2 東部エリアの市立学校・保育所の今後のあり方について	10
(1) 東部エリア全体を考えた市立学校・保育所の望ましい方向性としての視点	10
(2) 特色ある市立学校・保育所づくり（地域づくり）の視点	10
(3) 災害に強い市立学校・保育所づくりの視点	10
第4章 南国市これからの教育・保育について	11
1 地元との合意形成を大切にされた教育行政の進め方について	11
2 地域コミュニティの形成と学校・保育所・幼稚園づくりについて	11
3 民間施設について	11
その他	
審議経過	12
委員名簿	13
資料編	

はじめに

南国市では、乳幼児・児童生徒数の減少が中長期的に進行することが見込まれるとともに、市内中心部への人口集中による学校の大規模化から派生する問題や、一方では、市周辺部における複式学級を有する小学校の増加など、児童生徒数減少に伴う様々な問題が生じています。また、近年の豪雨災害や南海トラフ地震（津波）等大規模災害に対する安全対策についても、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域、津波浸水区域に立地する市立保育所・幼稚園、学校は多く、乳幼児・児童生徒の命にかかる問題として早急な対策が求められているところです。

こうした中、南国市教育委員会は、令和2年度に、南国市の将来を見据えた中長期的な観点から、これからの教育・保育の在り方について考える有識者会議、「南国市これからの教育・保育を考える会（以下、「考える会」という。）を令和3年度に設置する方針を決定しました。

この方針をもとに、南国市教育長は、令和2年度、市内各小中学校等を訪問し、保護者や地域の方々に対して「考える会」の実施について説明を行うとともに、本市の教育や学校に対する様々な意見や要望を聴く機会も設けてきました。

本会は、令和3年8月、南国市教育委員会から諮問を受け、市の現状や地域の実情等を鑑みながら、南国市の将来を見据えた中長期的な観点から、南国市のこれからの教育・保育の在り方について審議を行ってきました。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響も心配しましたが、全6回の会議を行うことができ、このたび答申書を作成することができました。

南国市の今後ますますの発展と、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、次のとおり答申します。

令和4年8月

南国市これからの教育・保育を考える会

第1章 南国市における学校規模について

1 児童生徒数及び学級数における現状と課題について

(1) 市全体の状況について

○南国市の児童生徒数は、平成13年度から平成23年度の10年間で、小学校で229人減少、中学校で108人減少している。平成23年度から令和3年度の10年間で、小学校381人減少、中学校で155人減少している。さらに、6年後の令和9年度には、小学校で97人、中学校で、54人減少する見込みであり、今後も市内全体の児童生徒数は減少傾向で推移するものと考えられる。

○小中学校とも、平成23年度から本年度までの10年間で児童生徒数減少に伴い、通常の学級数は減少しているが、特別支援学級（以下「特支学級」）の児童生徒数の増加に伴い支援学級が増加しているため、市内全体では顕著となる学級数の減少には至っていない。

		令和9年度	令和3年度	平成23年度	平成13年度
		6年後	本年度	10年前	20年前
小学校	市内児童数	2,186人	2,283人	2,664人	2,893人
	特支学級児童数		99人(内数)	47人(内数)	31人(内数)
	通常の学級数		106学級	109学級	110学級
	特支学級数		31学級	21学級	20学級
	児童数推移	▲97人	▲381人	▲229人	
中学校	市内生徒数	974人	1,028人	1,183人	1,291人
	特支学級生徒数		49人(内数)	13人(内数)	17人(内数)
	通常の学級数		34学級	40学級	39学級
	特支学級数		15学級	9学級	11学級
	生徒数推移	▲54人	▲155人	▲108人	

「各年度5月1日現在の小学校児童数・学級数、中学校生徒数・学級数」、「令和4年度以降における小学校及び中学校に係る推計児童生徒数の調査」より

(2) 各小中学校の状況について

○このように市内全体の児童生徒数の減少が見られる中、大篠小学校及び香長中学校の児童生徒数の増加が顕著となっている。大篠小学校区には、広い市街化区域があることや、新たな宅地開発やマンション建設が進んでいることもあり、大篠小学校及び大篠小学校を校区に持つ香長中学校については、今後も一極集中的な児童生徒数の増加傾向が続くものと見込まれる。

○稲生小学校、大湊小学校、奈路小学校、白木谷小の4校については、今後も入学予定者

数が10人以下となる傾向が続く見込みである。特に、稲生小学校、大湊小学校については、現状のままでは、児童数の回復は見込めない状況である。一方、奈路小学校、白木谷小学校の2校については、地元からの入学予定者の増加は見込まれないものの、特認校制度によるこれまでの実績からも一定の入学者は確保できる可能性が高いと考える。

○鳶ヶ池中学校区の長岡小学校、後免野田小学校については、令和9年度までの生徒推移は、増加している。このことは、津波をはじめ、洪水や土砂災害の比較的心配の少ない地理的条件に恵まれていることや、校区内に市街化区域がある学校であることも影響しているものとする。

	令和3年度										児童生徒数の推計					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	児童生徒数	内特支学級数	児童生徒数	通常の学級数	特支学級数	R4	R5	R6	R7	R8
十市小学校	53	56	46	55	56	54	320	11	12	3	314	303	294	294	272	245
稲生小学校	7	6	12	10	10	16	61	5	5	2	51	50	44	38	38	36
三和小学校	15	16	15	21	18	18	103	5	6	2	98	93	84	79	69	65
大篠小学校	136	134	126	133	108	137	774	23	25	4	767	794	795	811	830	834
日章小学校	17	35	23	15	22	22	134	5	7	2	142	136	150	143	128	129
大湊小学校	6	3	6	4	5	6	30	3	4	2	31	30	32	33	34	30
後免野田小学校	33	35	21	30	23	23	165	13	8	4	171	180	185	196	190	191
長岡小学校	49	45	41	38	42	30	245	8	11	4	266	263	271	268	276	260
岡豊小学校	25	37	30	30	29	35	186	14	7	3	181	188	193	182	167	163
国府小学校	17	11	18	10	18	16	90	5	6	2	94	91	90	88	92	86
久礼田小学校	19	17	17	23	21	24	121	5	6	1	110	103	97	94	90	82
奈路小学校	8	4	1	1	6	4	24	1	4	1	24	22	28	31	32	30
白木谷小学校	2	7	5	6	6	1	27	1	4	1	33	34	34	37	34	35
岡豊小学校 希望が丘分校	0	0	0	1	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
小学校 計	387	406	361	377	364	388	2,283	99	106	31	2,282	2,287	2,297	2,294	2,252	0
香長中学校	204	205	171				580	15	16	4	587	553	543	541	559	552
鳶ヶ池中学校	55	56	51				162	13	6	4	156	153	150	157	170	181
香南中学校	36	19	31				86	4	3	2	85	86	64	58	66	69
北陵中学校	62	57	69				188	14	6	3	186	184	176	174	171	0
北陵中学校 希望が丘分校	3	3	6				12	3	3	2	0	0	0	0	0	0
中学校 計	360	340	328				1,028	49	34	15	1,014	976	933	930	966	974
合計	747	746	689				3,311	148	140	46	3,296	3,263	3,230	3,224	3,218	3,160

「令和3年5月1日現在の小学校児童数・学級数、中学校生徒数・学級数」、特認校制度、隣接校制度利用者数を含めた入学する児童生徒推計より

(3) エリア別の市立学校・保育所・幼稚園について

○共通の課題のある市立学校・保育所・幼稚園を、4つのエリア（北部エリア・中部エリア・東部エリア・南部エリア）に分類することができる。

《エリア別 市立保育所・幼稚園・学校一覧》

エリア	保育所・幼稚園	小学校	中学校
北部エリア	久礼田保育所、国府保育所 たちばな幼稚園	国府小 岡豊小 久礼田小 奈路小 白木谷小	北陵中
中部エリア	長岡西部保育所 明見保育所	大篠小 後免野田小 長岡小	鳶ヶ池中 香長中※
東部エリア	あけぼの保育所	大湊小※ 日章小	香南中
南部エリア	里保育所	十市小、稲生小、三和小 大湊小※	香長中※

※課題の重複する大湊小、香長中については2エリアに属するものとする。

○児童生徒数等に関するエリア別の主な課題は次のとおりである。

《児童生徒数等に関するエリア別課題》

エリア	課 題
北部エリア	○児童生徒数の減少 ○特認校制度の充実 ○スクールバスの活用
中部エリア	○児童生徒数の増加 ○大篠小隣接校制度の影響
東部エリア	○児童生徒数の減少 ○複式学級の導入(大湊小) ○生徒数減少による部活動への影響
南部エリア	○児童数の減少 ○複式学級の導入(大湊小・稲生小)

○北部エリアは、本市の中山間地域を含むエリアであり、現状では、全体的に児童数減少傾向が続くと見込まれるエリアである。奈路小学校、白木谷小学校については、特認校制度により、例年校区外からの入学者を確保しており、地元からは、本制度の継続・充実を望む声大きい。また、久礼田小学校、奈路小学校、白木谷小学校の3校は、スクールバスを活用しているが、運転手確保など課題も多い。

○中部エリアは、本市の中心市街地に位置するエリアであり、大篠小学校や香長中学校を中心とした児童生徒数増加に伴う過大規模化に対する対策が今後の課題である。平成29年度から大篠小学校校隣接校制度を導入し、これまで5年間でのべ108人の児童が本制度を利用し隣接校に入学するなど成果を上げてきた。その一方で、後免野田小学校は、隣接校制度を活用した児童数が増加したため教室不足となり、令和2・3年度と募集を停止している状況である。

○東部エリアは、4エリアの中で最も児童生徒数が減少傾向にあるエリアである。特に大湊小学校は、児童数減少に伴い複式学級を有する学校となったが、保護者からは複式教

育における学力面への影響を不安に思う声も少なくない。また香南中学校は、生徒数減少に伴う部活動への影響も大きく、近年では「部活動を理由とした指定校の変更」という制度を利用し、他の中学校への校区外通学を希望する生徒が増えてきている。

○南部エリアは、上に述べた大湊小学校をはじめ、稲生小学校、三和小学校の3小学校が児童数減少の傾向が進んでいるエリアである。稲生小学校については、大湊小学校と同様に複式学級を有する学校となり、保護者からも学力面への影響に対する不安の声が寄せられている。

2 望ましい学校規模の考え方について

○国・県の示す学校の適正規模として、小学校は1学年2学級以上、全体で12学級以上、中学校は1学年2学級以上、全体で6学級以上となっている。

○南国市の学校規模の考え方については、それぞれの地域や学校の様々な実情や特性を踏まえ、一律の基準として定めるのではなく、「望ましい学校規模のめやす」として提起することを基本的な考え方とする。

○学校を存続させることを基本方針とし、そのための対策を実施していくが、この「望ましい学校規模のめやす」を基に、各学校がめやすを満たさない状況となった場合や、あるいは改善が見込まれない状況となった場合は、学校再編等も含めた検討を始めることが必要であるとする。

3 望ましい学校規模のめやすについて

- 「望ましい学校の規模のめやす」は、児童生徒数だけでなく、教職員配置数への影響等を鑑みて、学級数をめやすとして考えることを基本的な考え方とする。
- 各学校における「望ましい学校規模のめやす」についての考え方は、以下のとおりとする。

南国市立小中学校における望ましい学校規模のめやす

【小学校】

現状	学校名	望ましい学校規模のめやす（通常の学級）
複式を有する学校	奈路小 白木谷小	3～4学級 1・2 、 3・4 、 5・6 (少なくとも完全複式学級が維持できること)
	稲生小 大湊小	6学級（1学年1学級が維持できること）
1学年1学級	久礼田小 岡豊小 国府小 後免野田小 三和小 日章小	6学級（1学年1学級が維持できること）
1学年1～2学級	長岡小	
1学年2学級	十市小	
1学年3～5学級	大篠小	2～3学級 全校12～18学級

【中学校】

現状	学校名	望ましい学校規模のめやす（通常の学級）
1学年1学級	香南中	1学年2～3学級 全体6～9学級
1学年2学級	北陵中 鳶ヶ池中	
1学年5～6学級	香長中	1学年4～6学級 全体12～18学級

- 奈路小学校と白木谷小学校は、複式教育が学校や地域の特色として根付いており、その歴史も古い。また、例えば、校舎についても、複式教育の実施を前提としたつくりとなっている。
- 一方、稲生小学校と大湊小学校については、1学年1学級で編制してきた学校であり近年の入学状況を鑑みても、保護者等の両校に対する小規模化や複式学級への不安が大きい。このことから、6学級（1学年1学級が維持できること）が望ましいと考える。

4 「望ましい学校規模のめやす」から見た学校の状況について

「望ましい学校規模のめやす」に当てはめた場合、各学校の現状については以下のとおりである。

区 分	めやすを満たしている	めやすを満たしていない	めやすを上回っている
小学校	奈路小 白木谷小 久礼田小 岡豊小 国府小 後免野田小 長岡小 十市小 三和小 日章小	稲生小 大湊小	大篠小
中学校	北陵中 鳶ヶ池中 香長中	香南中	

- 「望ましい学校規模のめやす」に当てはめた場合、小学校では、稲生小学校と大湊小学校が、中学校では、香南中学校がめやすを満たしていない学校となる。
- 稲生小学校、大湊小学校、香南中学校の3校については、前述の「望ましい学校規模のめやす」の考え方にに基づき、改善が見込まれない状況となった場合は、学校再編等も含めた検討を始めることが必要である。
- 大篠小学校については、既にめやすを上回っている。また校区内には宅地開発やマンション建設が進んでおり、今後さらに児童数の増加が見込まれるため、大篠小学校隣接校制度の継続的な取組等の対策を講じていく必要である。

第2章 災害被災予想域にある市立学校・保育所・幼稚園について

1 南国市の災害に関する現状と課題について

南国市の災害に関する学校の現状については次のとおりである。

① 南海トラフ地震による津波浸水区域に位置する市立小中学校・保育所

保育所	1施設	里保育所
小学校	3校	稲生小、三和小、大湊小
中学校	なし	

○南海トラフ地震による津波浸水区域に位置する市立小中学校・保育所は、里保育所、稲生小学校、三和小学校、大湊小学校で、児童の安全確保及び被災後の学校再開を想定した対策が急がれる。

② 南国市洪水浸水想定区域に位置する市立小中学校・保育所

保育所	3施設	里保育所、明見保育所、あけぼの保育所
小学校	7校	稲生小、三和小、大篠小、日章小、大湊小、後免野田小、岡豊小
中学校	2校	香長中、香南中

○国分川流域の12時間総雨量が808mmに達した際（高知県／令和元年10月29日公表）及び、物部川流域の12時間総雨量が681mmに達した際（高知河川国道事務所／令和2年3月公表）に洪水浸水想定区域とされる区域に位置する保育所は3施設、小学校7校、中学校2校となっている。北部エリアの一部を含む、中部エリアや東部エリアが主な区域となっている。

③ 南国市土砂災害警戒区域に位置する市立小中学校・幼稚園

幼稚園	1園	たちばな幼稚園
小学校	4校	十市小、稲生小、奈路小、白木谷小
中学校	1校	北陵中

○土砂災害警戒区域に位置する市立小中学校・幼稚園は、たちばな幼稚園と、小学校4校、中学校1校で、北部エリアと南部エリアに位置する幼稚園、学校となっている。

2 津波浸水区域の市立学校・保育所の考え方について

- 南海トラフ地震による津波浸水区域に立地する稲生小学校、三和小学校、大湊小学校については、耐震化工事は完了しているものの、津波の波力に耐えることのできる構造ではなく、時間をかけて議論するような状況ではないと考える。地域住民との対話を基本としながらも、人命優先とし、津波浸水区域内の学校の移転や統合、津波浸水区域外の学校の校区の変更を伴う学校再編等といったことを視野に一步前進したシナリオを描く時期であると考え。
- 津波浸水区域の住民は、安全面を考えた場合には、今の場所が適地ではないことは分かっていると思うが、「移転先」を示さないと地元はさらに不安を抱えてしまうことになるであろう。ただ単に、「学校再編」、「統合」という説明ではなく、移転先を含め学校等の未来が見える具体的な提案を示すことが必要である。
- 津波浸水区域内の学校の「学校再編」、「統合」を考える場合、浸水区域内の保育所を保小連携の先進的な事例とした再編等の可能性を探っていくことが必要であろう。

3 洪水浸水想定・土砂災害警戒区域に位置する市立学校・保育所・幼稚園の考え方について

- 津波浸水区域外で、洪水浸水想定・土砂災害警戒区域に立地する学校等についても、例えば、学校によってはより安全な場所への移転を検討する等、乳幼児・児童生徒の安全を第一に考えた対応が必要であると考え。

施設名	土砂	津波	洪水
北陵中学校	×		
奈路小学校	×		
白木谷小学校	×		
久礼田小学校			
国府小学校			
岡豊小学校			×
たちばな幼稚園	×		
久礼田保育所			
国府保育所			
鷹ヶ池中学校			
長岡小学校			
後免野田小学校			×
長岡西部保育所			

施設名	土砂	津波	洪水
香南中学校			×
日章小学校			×
大湊小学校		×	×
あけぼの保育所			×
香長中学校			×
大篠小学校			×
三和小学校		×	×
稲生小学校	×	×	×
十市小学校	×		
明見保育所			×
里保育所		×	×

第3章 東部エリアの市立学校・保育所について

1 東部エリアの現状と課題について

○東部エリアのあけぼの保育所、大湊小学校、日章小学校、香南中学校は、南国市洪水浸水想定区域に立地する保育所、学校であり、また、大湊小学校は、南海トラフ地震による津波浸水区域に立地する学校として、安全対策が最重要課題である。

○大湊小学校については、入学予定者数は今後も10人以下を推移していくものと想定される。またここ数年、校区外への入学希望者が多くなっていることから、上記の入学予定者数よりもさらに減少することが見込まれる。

学校名	年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
大湊小	全校	30	31	30	32	33	34	30
	入学者・入学予定者	6	7	4	6	7	4	2
日章小	全校	134	142	136	150	143	128	129
	入学者・入学予定者	17	30	16	29	16	20	18
香南中	全校	86	85	86	64	58	66	69
	入学者・入学予定者	36	22	21	15	22	29	18

「令和3年5月1日現在の小学校児童数・学級数、中学校生徒数・学級数」、特認校制度、隣接校制度利用者数を含めた入学する児童生徒推計より

保育所名	R3	R4
あけぼの保育所	117	106

(保育所は校区に当たらないため推計園児数は出せない、5月1日現在の在園数を2年分のみ記載)

(あけぼの保育所は日章小学校校区にあるが、園児の約半数は日章小学校校区外に在住)

○大湊小学校については、津波浸水区域という立地条件からも、児童数確保を主な目的とする新たな施策立案については、極めて困難な状況であると考えている。

○日章小学校については、平成29年度から大篠小学校隣接校制度を導入してきたが、過去5年間で21人、年間平均5.2人の利用者にとどまるなど、大幅な児童数確保には至っていない。(令和4年度の隣接校制度の利用者は2人)

○香南中学校の保護者からは、生徒数が少ないため、部活動の選択肢が少なく、やりたい部活動がないことを理由に、親子で進学を迷っているという意見や、施設の老朽化を指摘する意見がある。(令和4年度導入の特認校制度の利用者は6人)

2 東部エリアの市立学校・保育所の今後のあり方について

東部エリアの市立学校・保育所の今後のあり方については以下のとおり3つの視点に立った取組を進めることを基本的な考え方とする。

(1) 東部エリア全体を考えた市立学校・保育所の望ましい方向性としての視点

○東部エリアでは、日章小学校と香南中学校については、児童生徒数確保等の施策の充実を図る必要がある。一方、大湊小学校については課題が多く、単に大湊小学校だけの問題として捉えるのではなく、大湊小学校を軸とした東部エリア全体の課題として捉え、学校再編等の議論を早急に開始すべきであると考え。

(2) 特色ある市立学校・保育所づくり（地域づくり）の視点

○東部エリアについては、これまで積み上げてきた小中連携による英語教育と防災教育といった基盤・メリットを生かし、小中一貫（連携）校、あるいは義務教育学校といった新たな学校づくりについても可能性を探っていくことが必要であると考え。

○新たな施設を建築する際には、小中学校だけでなく、保育所や特別支援学校等の公立施設との併設や、民間との複合施設の可能性を探ることや、PPP/PFIの手法を導入するなどの、民間の力の利用も検討する必要がある。

(3) 災害に強い市立学校・保育所づくりの視点

○東部エリア（香南中ブロック）では、南国市洪水浸水想定区域に立地する小中学校としてすべて3校が該当していることと、併せて、大湊小学校が南海トラフ地震による津波浸水区域に立地していることを最優先課題として捉え、事前復興の視点も含め早急な対策が必要であると考え。

○東部エリアでは、災害に強いということを前面にしていける魅力ある学校づくりを考えていく必要がある。

第4章 南国市これからの教育・保育について

これまでの検討結果を踏まえ、本考える会として、留意事項を最後にまとめておきたい。

1 地元との合意形成を大切にした教育行政の進め方について

- 本考える会の提言内容については、「短期的に実現することが求められること」と「中長期的な将来を見据えた計画的な実施が求められること」に精査して取り組まれることを期待する。
- 児童生徒数の減少や災害等に対する安全確保等、各地域毎に様々課題はあるが、そういう状況だからこそ学校と地域コミュニティがよりいっそう一体となった取組が重要であり、地域や保護者に各学校の現状を伝えながら、地域全体でよりよい方法や学校の在り方について考えてもらうような機会を持つことが今後とも必要であると考えます。
- 文部科学省は、小規模校のメリットの活用策、デメリットの緩和策を打ち出している。そうした情報提供を行いながら、可能な限り地元の存続等の希望に寄り添った対応が必要である。その一方で、教育委員会として「学校再編」、「統合」についての議論を始める一定のラインとして「望ましい学校規模のめやす」を示しながら、時間をかけた継続かつ丁寧な説明の積み重ねに期待する。
- 「学校再編」、「統合」には、PPP/PFIの活用等様々な可能性を模索して進めていくことを期待する。

2 地域コミュニティの形成と学校・保育所・幼稚園について

- 子どもの数の減少（増減）の大きな要因として、市街化調整区域の課題を含めた市のまちづくり構想が大きくかかわってくると思われる。子どもを産み育てやすい地域コミュニティを考えたまちづくりに期待したい。

3 民間施設について

- 設置者が南国市ではない、私立の中学校・保育園・認定こども園等については詳細な検討を行っていないが、津波浸水・洪水浸水・土砂災害の危険性のある場所に立地している施設については、公立施設と同様の対応がとれるよう、民間施設と協力する必要があることを申し添える。

南国市これからの教育・保育を考える会

審議経過

第1回審議会 令和3年8月5日（木） 南国市役所 大会議室

《審議テーマ》 南国市の保育・教育行政の現状と課題について

第2回審議会 令和3年10月28日（木） 南国市役所 上下水道局会議室

《審議テーマ》 南国市における望ましい学校規模の考え方について
～小規模校の今後の在り方～

第3回審議会 令和3年11月30日（火） 南国市役所 委員会室

《審議テーマ》 津波浸水区域の保育・学校の在り方について
～幼児・児童生徒の安全確保と学びを止めない対策をどう進めるべきか～

第4回審議会 令和4年1月20日（木） 南国市役所 上下水道局会議室

《審議テーマ》 1. 東部エリア（香南中ブロック）の今後の在り方について
～大湊小学校の学校再編を軸とした香南中ブロックの学校再編の考え方について～
2. PPP/PFIについて

第5回審議会 令和4年3月24日（木） 南国市役所 委員会室

《審議テーマ》 答申（案）について

第6回審議会 令和4年7月29日（金） 南国市役所

《審議テーマ》 答申について

答 申 令和4年8月26日

南国市これからの教育・保育を考える会委員

- 会 長 柳林 信彦 国立大学法人 高知大学 副学長
- 副 会 長 森岡 俊介 学校法人 沢田学園 みさと幼稚園 園長
- 委 員 田村 由香 学校法人 高知学園
高知学園短期大学 幼児保育学科 教授
- 委 員 岡田 哲夫 南国市民生児童委員協議会 会長
- 委 員 坂本 緑 社会福祉法人 嶺南福祉事業会
浜改田保育園 元園長

資料編

○南国市これからの教育・保育を考える会設置要綱

令和3年4月21日教育委員会告示第3号

令和3年9月14日教育委員会告示第8号

(設置)

第1条 本会は、南国市これからの教育・保育を考える会（以下「考える会」という。）と称し、事務局を南国市教育委員会内に置く。

(目的)

第2条 南国市の子どもたちの将来にわたって望ましい教育・保育環境を維持するため、南国市教育長の諮問を受け、必要な事項を調査審議し、教育委員会に答申することを目的とする。

(委員)

第3条 考える会は、委員5人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 識見を有する者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱から答申が出された日までとする。ただし補充の委員は、前任者の在任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 考える会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 考える会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、会議に関係者を出席させ、その意見又は説明を聴くことができる。また、その関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 考える会の庶務は、学校教育課において処理する。

(報償)

第8条 委員が会議に出席した際は、報償費として、日額13,000円を支給する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、考える会に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行し、改正後の南国市これからの教育・保育を考える会設置要綱の規定は、令和3年8月5日に遡って適用する。

国・県の示す学校の適正規模

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より抜粋

(望ましい学級数の考え方)

- こうしたことを踏まえて望ましい学級数を考えた場合、小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも1学年1学級以上(6学級以上)であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには1学年2学級以上(12学級以上)あることが望ましいものと考えられます。
- 中学校についても、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも1学年2学級以上(6学級以上)が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましいものと考えられます。

「高知県における小中学校の適正規模について」より抜粋

学校経営上の観点から、学校規模は最低小学校12学級程度、中学校は6学級程度が必要である。

平成13年度 小学校 児童数・学級数 (平成13年5月1日現在)

番号	学校名	児童数						障害児学級児童数	児童数計	学級数						通常の学級数計	障害児学級数	学級数合計	給食校
		学年								学年									
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6				
1	十市小学校	114 (1)	95 ()	103 ()	100 (2)	74 (2)	71 ()	5	562	3	3	3	3	2	2	16	3	19	○
2	稲生小学校	9 (1)	15 ()	15 ()	11 (1)	21 ()	19 ()	2	92	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○
3	三和小学校	19 ()	17 (1)	24 ()	24 ()	21 ()	36 ()	1	142	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○
4	大篠小学校	96 (1)	106 (2)	110 ()	108 (3)	124 ()	106 (1)	7	657	3	3	3	3	4	3	19	3	22	○
5	日章小学校	36 ()	28 ()	40 ()	38 ()	33 (1)	41 (1)	2	218	1	1	1	1	1	2	7	2	9	○
6	大湊小学校	17 ()	12 ()	17 ()	19 ()	25 ()	18 ()		108	1	1	1	1	1	1	6		6	○
7	後免野田小学校	28 ()	16 ()	29 ()	19 ()	38 (1)	30 ()	1	161	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○
8	長岡小学校	51 (2)	47 (1)	39 ()	46 ()	45 (2)	42 ()	5	275	2	2	1	2	2	2	11	4	15	○
9	国府小学校	13 ()	12 ()	19 ()	12 ()	12 ()	14 ()		82	1	1	1	1	1	1	6		6	○
10	久礼田小学校	32 ()	41 ()	23 ()	32 ()	23 (1)	31 (1)	2	184	1	2	1	1	1	1	7	2	9	○
11	岡豊小学校	67 (1)	60 (2)	58 ()	66 ()	48 ()	57 (1)	4	360	2	2	2	2	2	2	12	2	14	○
12	奈路小学校	8 ()	3 ()	9 ()	1 ()	4 ()	4 ()		29	1	1		1		1	4		4	△
13	白木谷小学校	2 ()	4 ()	3 ()	2 ()	4 ()	5 (2)	2	22	1		1		1		3	1	4	△
14	岡豊小学校 希望が丘分校	()	()	()	()	()	1 ()		1						1	1		1	
	計	492 (6)	456 (6)	489 ()	478 (7)	472 (6)	475 (6)	31	2,893	19	19	17	18	18	19	110	20	130	

- 注 1 () 内の数字は、障害児学級児童数を外数で記入。
 2 「障害児学級児童数」欄は、1～6学年までの () の合計を記入。
 3 「給食」欄の記入については、
 給食実施校で、単独実施校は ○
 親子方式で、単独実施校から配給を受けている学校は △
 共同調理場から配給を受けている学校は 「共」を記入のこと。

平成13年度 中学校 生徒数・学級数 (平成13年5月1日)

番号	学校名	生徒数			障害児学級生徒数	生徒数計	学級数			通常の学級数計	障害児学級数	学級数合計	給食校	
		学年					学年							
		1	2	3			1	2	3					
1	香長中学校	197 (1)	197 (2)	206 (1)	4	604	5		5	6	16	3	19	
2	香南中学校	64 (1)	57 (1)	54 ()	2	177	2		2	2	6	2	8	
3	鷹ヶ池中学校	66 (2)	46 (2)	61 (1)	5	178	2		2	2	6	3	9	
4	北陵中学校	100 (1)	110 (3)	100 (2)	6	316	3		3	3	9	3	12	
5	北陵中学校 希望が丘分校	1 ()	4 ()	11 ()		16	1			1	2		2	
	計	428 (5)	414 (8)	432 (4)	17	1,291	13		12	14	39	11	50	

- 注 1 () 内の数字は、障害児学級生徒数を外数で記入。
 2 「障害児学級生徒数」欄は、1～3学年までの () の合計を記入。
 3 「給食」欄の記入については、
 給食実施校で、単独実施校は ○
 親子方式で、単独実施校から配給を受けている学校は △
 共同調理場から配給を受けている学校は 「共」を記入のこと。

平成23年度 小学校 児童数・学級数 (平成23年5月1日現在)

番号	学校名	児 童 数										学 級 数										給食校				
		学 年										特別支援 学級児童 数計	児童数計	学 年						通常 の学級 数計	特別 支援 学級 数計		合計			
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年			5年	6年											
1	十市小学校	58	2	51		59	66	1	69		80	2	5	388	2	2	2	2	2	2	2	12	2	14	○	
2	稲生小学校	9		18		11	17	1	13		18	1	2	88	1	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○	
3	三和小学校	25	1	21	2	19	1	18		24		35	1	5	147	1	1	1	1	1	1	6	3	9	○	
4	大篠小学校	125	2	116	3	140	133	3	152	3	127	1	12	805	5	4	4	4	4	4	4	25	3	28	○	
5	日章小学校	28	1	43	1	35		39		38		39	1	3	225	1	2	1	2	1	1	8	2	10	○	
6	大湊小学校	10		7	1	20		14	1	20		16	1	3	90	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○	
7	後免野田小学校	21	2	25	2	20		19	1	20		27		5	137	1	1	1	1	1	1	6	3	9	○	
8	長岡小学校	38		41	1	41		39	1	36	1	36		3	234	2	2	2	2	1	1	10	1	11	○	
9	国府小学校	16	1	14		20		16	1	16		17	1	3	102	1	1	1	1	1	1	6	2	8	○	
10	久礼田小学校	24	1	27	1	17		30		28	1	19		3	148	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○	
11	岡豊小学校	36		44	1	39		41		46	2	43		3	252	2	2	2	2	2	2	12	2	14	○	
12	奈路小学校	3		3		3		3		6		10		0	28	1		1		1		3	0	3	○	
13	白木谷小学校	3		2		3		5		4		3		0	20	1		1		1		3	0	3	△	
14	岡豊小学校 希望が丘分校	0		0		0		0		0		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合 計	396	10	412	12	427	1	440	9	472	7	470	8	47	2,664	20	18	19	18	18	16	109	21	130		

- 注 1 児童数の記入については、各学年の左の欄に通常の学級の児童数を記入し、右の欄に特別支援学級の児童数を外数で記入すること。
 2 「特別支援学級児童数計」欄は、1～6学年までの特別支援学級児童数の合計を記入すること。
 3 「給食」欄の記入については、
 給食実施校で、単独実施校は○
 親子方式で、単独実施校から配給を受けている学校は△
 共同調理場から配給を受けている学校は「共」を記入すること。

平成23年度 中学校 生徒数・学級数 (平成23年5月1日現在)

番号	学校名	生 徒 数							学 級 数						給食校		
		学 年							特別支援 学級生徒 数計	生徒数計	学 年			通常 の学級 数計		特別 支援 学級 数計	合計
		1年	2年	3年	1年	2年	3年										
1	香長中学校	199		202	1	211	1	2	614	7	6	6	19	1	20		
2	香南中学校	35		39	1	46		1	121	1	1	2	4	1	5		
3	薦ヶ池中学校	48	2	55	3	66	1	6	175	2	2	2	6	3	9		
4	北陵中学校	79	2	74	1	100		3	256	3	2	3	8	3	11		
5	北陵中学校 希望が丘分校	1	1	3		12		1	17	1	1	1	3	1	4		
	合 計	362	5	373	6	435	2	13	1,183	14	12	14	40	9	49		

- 注 1 1 生徒数の記入については、各学年の左の欄に通常の学級の生徒数を記入し、右の欄に特別支援学級の生徒数を外数で記入すること。
 2 「特別支援学級生徒数計」欄は、1～3学年までの特別支援学級生徒数の合計を記入すること。
 3 「給食」欄の記入については、
 給食実施校で、単独実施校は○
 親子方式で、単独実施校から配給を受けている学校は△
 共同調理場から配給を受けている学校は「共」を記入すること。

令和3年度 小学校 児童数・学級数（令和3年5月1日現在）

番号	学校名	児 童 数											学 級 数							給食校						
		学 年											学 年						通常の学級数計		特別支援学級数計	合計				
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級児童数計	児童数計	1年	2年	3年	4年	5年	6年											
1	十市小学校	52	1	53	3	45	1	53	2	55	1	51	3	11	320	2	2	2	2	2	2	12	3	15	○	
2	稲生小学校	6	1	5	1	11	1	10		9	1	15	1	5	61	1	1			1	1	1	5	2	7	○
3	三和小学校	15		16		14	1	21		15	3	17	1	5	103	1	1	1	1	1	1	1	6	2	8	○
4	大禰小学校	134	2	130	4	123	3	127	6	104	4	133	4	23	774	5	5	4	4	3	4	25	4	29	○	
5	日章小学校	16	1	33	2	22	1	14	1	22		22		5	134	1	2	1	1	1	1	1	7	2	9	○
6	大湊小学校	6		3		5	1	4		4	1	5	1	3	30	1	1	1		1	1	1	4	2	6	○
7	後免野田小学校	31	2	32	3	19	2	28	2	22	1	20	3	13	165	2	2	1	1	1	1	1	8	4	12	○
8	長岡小学校	48	1	43	2	40	1	35	3	41	1	30		8	245	2	2	2	2	2	1	1	11	4	15	○
9	国府小学校	17		10	1	18		9	1	16	2	15	1	5	90	1	1	1	1	1	1	1	6	2	8	○
10	久礼田小学校	18	1	17		16	1	23		20	1	22	2	5	121	1	1	1	1	1	1	1	6	1	7	○
11	岡豊小学校	24	1	37		28	2	26	4	27	2	30	5	14	186	1	2	1	1	1	1	1	7	3	10	○
12	奈路小学校	8		4		1		1		5	1	4		1	24	1	1	1	1	1	1	1	4	1	5	○
13	白木谷小学校	2		7		5		6		5	1	1		1	27	1	1	1	1	1	1	1	4	1	5	△
14	岡豊小学校 希望が丘分校							1				2		0	3					1	1	1	1		1	
	合 計	377	10	390	16	347	14	358	19	345	19	367	21	99	2,283	20	22	16	17	16	15	106	31	137		

注1 児童数の記入については、各学年の左の欄に通常の学級の児童数を記入し、右の欄に特別支援学級の児童数を外数で記入すること。

2 「特別支援学級児童数計」欄は、1～6学年までの特別支援学級児童数の合計を記入すること。

3 「給食」欄の記入については、
給食実施校で、単独実施校は○
親子方式で、単独実施校から配給を受けている学校は△
共同調理場から配給を受けている学校は「共」を記入すること。

令和3年度 中学校 生徒数・学級数（令和3年5月1日現在）

番号	学校名	生 徒 数							学 級 数					給食校		
		学 年							学 年			通常の学級数計	特別支援学級数計		合計	
		1年	2年	3年	特別支援学級生徒数計	生徒数計	1年	2年	3年							
1	香長中学校	201	3	200	5	164	7	15	580	6	5	5	16	4	20	共
2	香南中学校	32	4	19		31		4	86	1	1	1	3	2	5	共
3	薦ヶ池中学校	49	6	54	2	46	5	13	162	2	2	2	6	4	10	共
4	北陵中学校	55	7	53	4	66	3	14	188	2	2	2	6	3	9	共
5	北陵中学校 希望が丘分校	3		2	1	4	2	3	12	1	1	1	3	2	5	
	合 計	340	20	328	12	311	17	49	1,028	12	11	11	34	15	49	

注1 生徒数の記入については、各学年の左の欄に通常の学級の生徒数を記入し、右の欄に特別支援学級の生徒数を外数で記入すること。

2 「特別支援学級生徒数計」欄は、1～3学年までの特別支援学級生徒数の合計を記入すること。

3 「給食」欄の記入については、
給食実施校で、単独実施校は○
親子方式で、単独実施校から配給を受けている学校は△
共同調理場から配給を受けている学校は「共」を記入すること。

特認校制度利用者数

	H29	H30	R1	R2	R3	5年 平均
十市小学校						+0.0
稲生小学校						+0.0
三和小学校						+0.0
大籾小学校	▲2	▲1		▲3	▲7	▲2.6
日章小学校						+0.0
大湊小学校						+0.0
後免野田小学校	▲1					▲0.2
長岡小学校				▲1		▲0.2
岡豊小学校	▲1					▲0.2
国府小学校						+0.0
久礼田小学校		▲2	▲1			▲0.6
奈路小学校	+4	+3	+1	+4	+7	+3.8
白木谷小学校						+0.0

	H29	H30	R1	R2	R3	5年 平均
十市小学校		▲1				▲0.2
稲生小学校						+0.0
三和小学校						+0.0
大籾小学校		▲2	▲2	▲3		▲1.4
日章小学校						+0.0
大湊小学校						+0.0
後免野田小学校						+0.0
長岡小学校	▲1					▲0.2
岡豊小学校			▲1			▲0.2
国府小学校		▲1				▲0.2
久礼田小学校						+0.0
奈路小学校						+0.0
白木谷小学校	+1	+4	+3	+3	+0	+2.2

隣接校制度利用者数

	H29	H30	R1	R2	R3	5年 平均
十市小学校						
稲生小学校	+0	+0	+0	+0	+0	+0.0
三和小学校	+1	+0	+1	+2	+2	+1.2
大籾小学校	▲20	▲17	▲21	▲34	▲16	▲21.6
日章小学校	+5	+2	+3	+10	+6	+5.2
大湊小学校						
後免野田小学校	+11	+8	+11	+18	+3	+10.2
長岡小学校	+2	+4	+3	+4	+2	+3.0
岡豊小学校	+1	+3	+3	+0	+3	+2.0
国府小学校						
久礼田小学校						
奈路小学校						
白木谷小学校						

	5年間平均 利用者数	制度利用 見込者数
十市小学校	▲0.2	
稲生小学校	+0.0	
三和小学校	+1.2	+1
大籾小学校	▲25.6	▲26
日章小学校	+5.2	+5
大湊小学校	+0.0	
後免野田小学校	+10.0	+10
長岡小学校	+2.6	+3
岡豊小学校	+1.6	+2
国府小学校	▲0.2	
久礼田小学校	▲0.6	▲1
奈路小学校	+3.8	+4
白木谷小学校	+2.2	+2

令和4年度以降令和9年度までに小学校の第1学年に入学する推計児童数

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
十市小学校	48	45	46	46	34	26
稲生小学校	6	9	4	6	6	5
三和小学校	12	12	11	9	5	10
大籾小学校	156	161	160	168	179	166
日章小学校	25	11	24	11	15	13
大湊小学校	7	4	6	7	4	2
後免野田小学校	19	22	25	22	19	24
長岡小学校	48	36	43	35	50	30
岡豊小学校	28	34	33	17	20	19
国府小学校	20	15	9	16	15	11
久礼田小学校	14	15	18	15	14	12
奈路小学校	0	0	3	0	1	2
白木谷小学校	5	5	4	6	2	1
岡豊小学校希望が丘分校	0	0	0	0	0	0
計	388	369	386	358	364	321

特認校制度、隣接校制度利用見込者数を含めた
小学校の第1学年に入学する推計児童数

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
十市小学校	48	45	46	46	34	26
稲生小学校	6	9	4	6	6	5
三和小学校	13	13	12	10	6	11
大籾小学校	130	135	134	142	153	140
日章小学校	30	16	29	16	20	18
大湊小学校	7	4	6	7	4	2
後免野田小学校	29	32	35	32	29	34
長岡小学校	51	39	46	38	53	33
岡豊小学校	30	36	35	19	22	21
国府小学校	20	15	9	16	15	11
久礼田小学校	13	14	17	14	13	11
奈路小学校	4	4	7	4	5	6
白木谷小学校	7	7	6	8	4	3
岡豊小学校希望が丘分校	0	0	0	0	0	0
計	388	369	386	358	364	321

令和4年度以降令和9年度までに中学校の第1学年に入学する推計生徒数

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
香長中学校	200	170	194	177	188	187
香南中学校	22	21	15	22	29	18
蔦ヶ池中学校	43	52	55	50	65	66
北陵中学校	63	63	55	56	60	56
北陵中学校希望が丘分校	0	0	0	0	0	0
計	328	306	319	305	342	327

「令和4年度以降における小学校及び中学校に係る推計児童生徒数調査」より